

メタセコイア

2013年5月30日発行
発行責任者：池田 健夫
近江兄弟社学園学園史編纂委員会

学園史編纂委員会通信 第2号

明るい未来を切り開く「楽しい仕事」になるよう

2013年度学園史編纂委員会開会挨拶 委員長 池田 健夫

本日は委員32名中24名お集まりいただき、誠にありがとうございます。外にもっと委員になって参加していただかなければならない方々がたくさんおられるものと思います。

学園史編纂事業に触発され、バザー（ヴォーリズデー）60年史がまとめられ、音楽会の記録もかなりそろえられております。私学助成運動も教育活動の重要な柱でありましたが、今、転換の時期を迎えて40年余の運動の歴史を総括する必要があります。

これらの作業を通して、PTA・同窓会・後援会・組合の歴史も整理され、新たに発展するはずです。いちど浅小井（相当の史料が集積されています）に集まって、史料の中から重要事項をカードに書き出し、時間列・分野別に整理して一覧表にする大仕事が必要だと思います。

こういう事業をコツコツ進めていくと、さらに史料が集まってくる、OBが話に来てくださる・・・というサイクルが生まれます。また他学園の百年史等も集められており、参考になります。ヴォーリズ来日当時の世界情勢、戦時中の政治・経済情勢等を研究することも学園史を「分厚い」ものにします。

学園史編纂事業が派閥的運動（往々にしてネガティブキャンペーンになります）や怨念を乗り越えて、明るい未来を切り開く「楽しい仕事」になるよう願っております。（2013.5.2 学園史編纂委員会）

事業計画

事務局長 檜山 秋彦

「近江兄弟社学園史資料Ⅲ」について

1. 期間： おおむね、満喜子没（1969年）後～2003年まで
2. 構成： ①年表
②年表に連動する資料の提出
3. 特記すべき事項（学園要覧、組合30年史など）

1966年 教職員組合設立（1月17日）
1969年 一柳満喜子帰天（9月7日）
1970年 校長公選制問題、小学校・中学校廃校問題
1972年 創立50周年記念式（記念事業としてヴォーリズ体育館と高校校舎（旧信愛館）建設
アメリカへの短期留学実施。高校修学旅行、韓国へ（戦後日本初の海外修学旅行）
1974年 株式会社倒産、学園経営の危機
1975年 定時制部生徒募集停止。（1978年最後の卒業生）
1977年 同和問題
1980年 一柳米来留生誕100年を祝う。中学校2クラス制
1983年 中高部は合同運営。中高一貫コース（Hクラス）発足。中学制服モデルチェンジ
1984年 小学校2クラス制。中学校3クラス編成。
高校はⅠ・Ⅱ・Ⅲ類の3コース生に再編。制服、紺色に変更。
1988年 立命館提携問題
1990年 高校修学旅行は分散型海外研修旅行に（韓国、香港、台湾、中国、マレーシア、シンガポール）
1991年 創立70周年事業としての新図書館＝現捜信館建設
1992年 管理職公選制による選挙実施。創立70周年記念式。バレー部、初の春高出場
1993年 高校コース制解消、大幅な教育改革。高校野球部、甲子園出場。
2000年 ハイド館、教育会館が文化財に登録される
2001年 高校単位制課程発足。スクールバス運営開始。
2002年 幼稚園舎、多賀校地に新築移転。創立80周年記念式典。
2003年 幼稚園新校舎竣工。高校学年制課程の改訂（P/Gクラス）実施。

4. 学校法人の基礎事項・数字の変遷

- ①歴代学園長・理事長・理事・評議員・管理職
- ②各校園の定員、生徒数の変遷
- ③生徒納付金
- ④補助金
- ⑤PTAの援助金

委員長(責任者)	池田 健夫			
副委員長(副責任者)	道城 献一	奥 達夫		
事務局長	檜山 秋彦			
事務局員	中西 完次	林 昌治	伊吹 章	
委員	こどもセンター	安川 千穂	宮川富己子	
	小学校	武藤 敬助	小森 康三	
	中学校	小野 春男	中島 薫	
	高等学校	藤澤 俊樹	池田 健一	辻 友子
	宗教部	池田 隆男		
	広報部	伊吹 章		
	国際部	豊田 秀三		
	進路部	上田 高志		
	生徒部	伊藤 之久		
	図書館	太田 典子	林 昌治	
	法人本部	押谷 美樹	山中 昭美	
	同窓会	青木香麻利		
	PTA・後援会	森田 一生		
	組合	両組合の代表者		
	学外	福田 耕治	田中 浩一	

近江兄弟社の先輩に聞く

～大原善之氏の体験を聞いて～

中西 完次

学園史編纂事務局では、去る3月13・14日に編集会議を中心とした一泊研修を行いました。2日目の午前には、元近江兄弟社の社員であった。大原善之氏をお招きし、体験談をお聞きする機会をもちました。大原氏は昭和3年生まれの83歳、お元気で3時間近くをほとんど休憩なしで正確な記憶をもって語っていただきました。

大原氏と兄弟社のつながりは、お父様が若い時期に生き方に悩まれ近江兄弟社の通信伝道を通じてキリスト教に入信・入社されたことから始まり、ご本人は昭和7年に幼稚園C組に入園、その後彦根中学・福井高専で学ばれ、昭和23年近江兄弟社製造部に入社、以後長きにわたって株式会社に奉職されました。特に電気技師としての知識技術を生かされて Hammond オルガン部で仕事をされ、Hammond オルガンと兄弟社の関係を知る貴重な存在であることがあらためて実感させられました。お話の中で学園と関連の深い部分は現ハイド館が

出来て間もないころの幼稚園での思い出であり、また、入社後間もない時期に定時制の物理・数学の授業をもたれたこと。在職最後に担当されていた工場部の責任者として株式会社倒産以後、定時制部の廃校に至るまで定時制部生徒の学習・卒業の保障に尽力された体験でした。今後の学園史の編纂にいかしてゆきたいと思っています。またこの席に兄弟社関係の写真をご持参いただきました。中には「大林子供の家」の写真と思われる初見の貴重な写真も含まれていました。

さらに最も印象深かったお話は、氏の戦時下での体験のお話でした。彦根中学在学中はほとんど授業がなく松原内湖や入江内湖の干拓労働にあけくれたこと。舞鶴海兵団での訓練の経験がその後の仕事に生かされていること。次いで入学された福井高専のあった福井では激しい空襲に会い九死に一生を得られたことなど、お聞きするのにいつまで時間があっても足りないほどの体験談でした。

学園史編纂事務局では今後も関係者方々の体験をお聞きする機会を設けて行きたいと思っております。

大原氏所蔵の貴重な写真資料の一部

